

中期計画「13-16 PLAN」総括

A 「建学の精神」「教育理念」の明確化

中期目標名称	中期計画	所管	主な取組内容				総括		
			2013年度	2014年度	2015年度	2016年度			
A1 キリスト教精神／For Othersの実践	①キリスト教研究所の整備 ②キリスト教に関する学術的研究の推進 ③キリスト教に関わる科目の充実と教育プログラムの整備・推進 ④学内における宗教活動の実施／交流体験で学ぶFor Others ⑤ボランティアセンターを中心とする各種プログラムの実施	キリスト教研究所 キリスト教研究所 キリスト教研究所 宗教センター ボランティアセンター	▶キリスト教研究所設立 ▶紀要の発行、講演会開催 ▶全学のキリスト教科目の整備 ▶宗教センターによる学内宗教活動 ▶ボランティアセンターを中心とした各種プログラムの実施				①②③2015年度からキリスト教研究所が活動を開始し、『キリスト教研究所紀要』の発行や講演会開催をととして、キリスト教研究活動の成果を広く学内外に発表した。2016年度には全学のキリスト教科目に関する具体的な提案、研究員制度の整備などを行い、2017年度以降の本格的な事業推進体制の準備を進めた。 ④⑤宗教センターやボランティアセンターの企画をととして、多くの学生が学内の宗教活動やFor Othersを実践する活動に取り組んだ。		
A2 女子大の特色をいかした教育・事業展開	①女子大ならではの教育プログラムの推進とその長所の発信 ②読書運動プロジェクト	学生課 大学附属図書館	▶相鉄不動産との共同プロジェクト ▶災害時の女性専用避難所設置についての検討 ▶読書運動プロジェクトの地域での活動				①2013年度には相鉄不動産との共同プロジェクト「学生の意見を取り入れた学生向け賃貸マンション」に取り組んだ。また、2013年度及び14年度を中心に「災害時の女性専用避難所設置」について検討し、特に2014年度には、横浜市男女共同参画センターとの協働の取り組みも実施した。 ②読書運動プロジェクトは、2017年2月に神奈川県近代文学館で行った朗読会において過去最高の集客を記録し、小学校での読み聞かせなど地域社会への貢献を果たしている。		
A3 ブランドの構築	大学の教育研究活動に関する広報戦略の見直し	企画・広報課	▶フェリス・ブックスの刊行(2015年度まで) ▶フェリス・ブックスの刊行(2015年度まで) ▶フェリス・ブックスの刊行(2015年度まで)	▶大学公式サイトリニューアル ▶大学公式サイトリニューアル	▶SNSを利用した広報活動の開始 ▶SNSを利用した広報活動の開始		フェリスのブランドイメージを高めるために、本学の教育研究活動をさまざまな広報活動をととして社会に周知した。広報の中心である大学公式サイトについては、2015年度にリニューアルを行った。また、受験生が主な閲覧者であることに配慮し、SNSを利用した情報発信を開始した。		
A4 中期計画に基づく教学改革の推進	①グランドデザインに基づいた全学的教育プログラムの推進 ②英語英米文学科のグランドデザインに基づいた将来計画を実現するための教学改革プロジェクト ③日本語日本文学科のグランドデザインに基づいた将来計画を実現するための教学改革プロジェクト ④コミュニケーション学科のグランドデザインに基づいた将来計画を実現するための教学改革プロジェクト ⑤国際交流学部での教学改革プロジェクト ⑥音楽学部再建計画の実行	教務課 文学部 英語英米文学科 文学部 日本語日本文学科 文学部 コミュニケーション学科 国際交流学部 音楽学部	▶CLA開設に向けたカリキュラム改革 ▶CLA開設に向けたカリキュラム改革 ▶CLA開設に向けたカリキュラム改革 ▶CLA開設に向けたカリキュラム改革 ▶CLA開設に向けたカリキュラム改革 ▶CLA開設に向けたカリキュラム改革 ▶CLA開設に向けたカリキュラム改革	▶英文学科名称変更→英語英米文学科、カリキュラム改革 ▶英文学科名称変更→英語英米文学科、カリキュラム改革 ▶英文学科名称変更→英語英米文学科、カリキュラム改革 ▶英文学科名称変更→英語英米文学科、カリキュラム改革 ▶英文学科名称変更→英語英米文学科、カリキュラム改革 ▶英文学科名称変更→英語英米文学科、カリキュラム改革	▶日本語日本文学科名称変更→日本語日本文学科、カリキュラム改革 ▶日本語日本文学科名称変更→日本語日本文学科、カリキュラム改革 ▶日本語日本文学科名称変更→日本語日本文学科、カリキュラム改革 ▶日本語日本文学科名称変更→日本語日本文学科、カリキュラム改革 ▶日本語日本文学科名称変更→日本語日本文学科、カリキュラム改革 ▶日本語日本文学科名称変更→日本語日本文学科、カリキュラム改革	▶カリキュラム改革 ▶カリキュラム改革 ▶カリキュラム改革 ▶カリキュラム改革 ▶カリキュラム改革 ▶カリキュラム改革	▶「3つのプログラム」の導入 ▶「3つのプログラム」の導入 ▶「3つのプログラム」の導入 ▶「3つのプログラム」の導入 ▶「3つのプログラム」の導入 ▶「3つのプログラム」の導入	▶音楽学科学科定員変更、カリキュラム改革 ▶音楽学科学科定員変更、カリキュラム改革 ▶音楽学科学科定員変更、カリキュラム改革 ▶音楽学科学科定員変更、カリキュラム改革 ▶音楽学科学科定員変更、カリキュラム改革 ▶音楽学科学科定員変更、カリキュラム改革	①2017年4月からの全学教養教育機構(CLA)のスタートに向け、基礎教養・総合課題科目全体において大幅なカリキュラム改革を実施し、フェリスの特色を反映した教養教育の実現に向けての準備を行った。 ②③④文学部では、英文学科と日本文学科が学科の教育指針を明確にするためのカリキュラム改革と「英語英米文学科」「日本語日本文学科」への名称変更を行った。コミュニケーション学科では、学部内他学科の関連科目との複式開講による科目の拡充、導入教育の充実などのカリキュラム改革を行った。 ⑤国際交流学部では、2014年度に導入した「3つのプログラム制」の定着化を進めると同時に、内容の検証を行い、履修者のニーズに応える対応を講じるなど、一定の成果を達成した。 ⑥音楽学部では、動画作成、各学科を紹介する冊子やチラシの作成を通して広報に努めた。これらの媒体の作成作業を進めることが、本学部の教育の在り方など重要点を振り返る機会となった。また、学部専任教員のFD活動にも取り組んだ。

B 安心・安全なキャンパスづくり

中期目標名称	中期計画	所管	主な取組内容				総括
			2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	
B1 キャンパス環境の整備	①エコキャンパスの推進／施設設備の計画的な整備	総務課			▶緑園2号館改修・CLA棟整備		①施設・設備については、建物等施設管理委託会社の協力のもと、長期修繕計画に基づき整備を行った。2016年度には、大学グランドデザインの柱の一つでもある全学教養教育機構(CLA)の拠点となるCLA棟設置に向けた改修工事を実施。先進的な教育環境を整備し本学の教育の特徴的な機能を備える施設となった。 ②図書館入館管理システムの入替え、教育研究システムのリプレイス、ICT環境の整備を実施し、教育研究環境の充実に取り組んだ。
	②教育研究システム、学院基盤システムの運営管理	情報センター		▶図書館入館システムの入替え 教育研究システムリプレイス			
B2 キャンパスの安全確保	①安心・安全なキャンパスづくり(大規模自然災害・防災対策、セキュリティ)	総務課		▶防災訓練、非常時対応の整備	▶緑園キャンパス各門の電子錠化		①②学生が安心して学ぶことのできるキャンパス環境の維持に向け、大規模災害等を想定した備蓄品の購入、防犯対策、セキュリティ強化、緊急連絡システムの管理運営に取り組んだ。
	②緊急連絡システムの運営管理	情報センター		▶緊急連絡システムの運用			
B3 食の安心・安全	安心・安全な食の提供	総務課			▶ヤサイクル(食品資源の再利用による野菜の栽培)による安全性の高い野菜の導入		学生食堂・学内売店の運営等について、安心・安全な食の提供という視点から学生サービスの向上に向けた改善を継続して行った。2015年度から、学生食堂ではヤサイクル(食品資源の再利用による野菜の栽培)による安全性の高い野菜を導入した。
B4 学生生活支援体制の充実	①バリアフリー化推進	学生課					①②③④⑤学生支援における課題は多様化・複雑化しているが、学生の4年間の学びをより豊かなものにできるよう、関係部署が連携しながら、生活支援、経済支援、正課外活動支援等に取り組んだ。 ⑥キャンパスアメニティに関しては、学生食堂、丸善キャンパスショップを中心に展開しているほか、緑園2号館(現CLA棟)、8号館のラウンジをFLO等の学生団体と共同して環境の改善を行った。
	②奨学金施策の拡充	学生課		▶学生生活支援体制の充実			
	③初年次一年間を通じた導入支援	学生課		・学生支援連絡会(保健師・学生相談員・学生課、教務課など教学部署)の定期的な開催			
	④規模、特性を生かした学生支援体制の構築	学生課		・学生支援センター(保健室・学生相談室・バリアフリー推進室)による学生支援			
	⑤大学生生活における心身の健康維持・増進を支援する	学生課					
	⑥学生厚生施設・キャンパスアメニティの充実	総務課		▶学生団体の協力も得たキャンパスアメニティに関する検討と改善			
B5 地域連携の推進	①地域連携ボランティアプログラム	ボランティアセンター		▶地域団体との協働によるボランティア活動			①②学生の多彩な学習機会として、地域のNPOと協働した大学の特色を生かしたボランティア活動や、アムネスティ・インターナショナルの活動への参加ほか、多文化共生社会に向けたフィールドワーク等を積極的に行った。
	②多文化共生社会に向けたボランティアプログラム	ボランティアセンター		▶多文化共生社会に向けた活動			

C 受験生・学生に支持される大学

中期目標名称	中期計画	所管	主な取組内容				総括
			2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	
C1 受験生の視点からの入試制度の見直し	①入試出願方法の見直し	入試課				▶Web出願システム導入検討	①②③入学試験においては、勉学に対する明確な目的と高い意欲を持つ入学者を獲得できるよう、受験生の学力を正しく判断できる質の高い入試問題作成に取り組んだ。2016年度にはアドミッション・ポリシーの見直しも行ったことから、これを土台にしながら、入試改革関連事業を継続して推進していくとともに、Webを利用した出願・入学手続き等、受験生を意識した入試業務の改善に取り組んだ。
	②適切な入試問題の作成	入試課				▶入試制度改革	
	③入試関連情報の有効活用	入試課				▶入試関連情報の収集	
C2 受験生への広報の強化	①受験生を対象とした広報の充実	入試課				▶受験生を対象とした広報 ・入学案内、パンフレット等 ・オープンキャンパス、授業見学会、高校教員対象説明会 ・受験雑誌等の各種媒体、新聞、Webサイト	①②③本学独自の広報印刷誌のほか、受験生や高校が利用する受験雑誌等各種媒体、新聞、Webサイトなどを活用しながら、大学基本情報や入試関連情報を有効かつ適切に発信し、入試広報活動を推進した。また、高校訪問、高校主催進学ガイダンス、出張授業等を通して、受験生を送り出す高校側との関係構築にも努めてきた。広報媒体の拡大に伴い受験生・保護者、高校の進路指導担当者の情報入手ツールも変化していることを踏まえ、より効果的な情報発信のあり方を検証している。
	②受験生を対象とした広報の充実	文学部				・高校訪問 ・進学ガイダンス ・出張授業	
	③受験志願者の安定的確保のための入試広報プロジェクト	文学部 日本語日本文学科					
C3 教育の充実	①コミュニケーション学科教員の情報発信と学生による情報発信	文学部 コミュニケーション学科				▶『多文化・共生コミュニケーション論叢』の刊行、学会講演会の開催	①文学部コミュニケーション学科では、『多文化・共生コミュニケーション論叢』の2016年度刊行号において、学科開設以来10年間の軌跡を振り返る諸情報を掲載し、社会に向けて情報発信を行った。 ②③④国際交流学部では、「研究入門」において、国際情勢を反映したトピックを中心にテーマを設定したテーマ授業群を導入し、専門科目と関連づける取り組みを行った。外部資金を利用した授業の展開については、継続的にフアンアジア財団からの外部資金を獲得し、内外の研究者を講師に迎えた授業「アジア共同体論」を実施した。学術研究成果としてこの期間に論文集を2冊刊行している。また、全学的な科目ナンバリングへ対応すると共に、各プログラムにおいては段階的に科目配置を行い、系統的な履修指導体制をとっている。 ⑤音楽学部では、予算の中でより教育効果が上がるように楽器・機器類等の教育環境の整備を行った。 ⑥⑦キャリア科目及び情報リテラシー科目において、2013年度にカリキュラムを大幅に見直し、PBL及びアクティブ・ラーニングによる科目展開とした。「健康・スポーツ」については2015年度にカリキュラムの見直しを行い、学生の状況及びニーズを反映したくより>フェリスらしい「健康・スポーツ」科目を構築した。2016年度に基礎教養・総合課題科目全体において科目群の枠組みから見直す大幅なカリキュラム改革を実施し、フェリスの特色を反映した全学教養教育を実現させた。併せて、より全学的な協働体制に基づく組織となるよう、運営体制も変更した。 ⑧⑨⑩語学教育については、FDワークショップ、教員オリエンテーションを継続的に実施し、各クラスにおける授業進度の連絡・調整、使用テキストの選定・調整、学生状況の共有といったカリキュラム全体としての改善に取り組んだ。これに加え、各担当者の授業方法や評価方法といった授業研究にも着目し、より質の高い授業ができるよう教員の能力向上にも取り組んだ。また、集中講義を活用した語学の集中学習について検討した。なお、英語カリキュラムの根幹となる習熟度別クラス編成を行うためのテストの見直しに4年間かけて取り組み、2017年度実施分の実施試験変更という成果につながった。
	②テーマ授業群の導入	国際交流学部					
	③外部資金を利用した授業の展開	国際交流学部				▶「アジア共同体論」を講義題目とする授業を展開	
	④プログラム制の導入+科目ナンバリング概念の導入	国際交流学部				▶プログラム制導入	
	⑤音楽学部の教育・研究環境の整備	音楽学部				▶メサイア公演 ▶メサイア公演	
	⑥社会変化に対応した「新しい時代の基礎教養」を目指して	基礎教養・総合課題科目委員会				▶キャリア科目、情報リテラシー科目におけるPBL及びAIによる展開 ▶CLA設置に向けたカリキュラム改革	
	⑦組織的なFDによる(より)フェリスらしい「健康・スポーツ」の構築	健康・スポーツ				▶<より>フェリスらしい「健康・スポーツ」の構築	
	⑧語学教育の質を支える「担当者間コーディネート」	教務課				▶英語FD Workshopの実施、初習外国言語別オリエンテーションの実施	
	⑨語学集中学修の仕組みづくり	教務課				▶集中講義期間の語学科目開講の検討 ▶夏季休業期間中に英語e科目の実施	
	⑩英語教育の効果測定とカリキュラム改善	教務課				▶習熟度別クラス編成テストの見直し	

中期目標名称	中期計画	所管	主な取組内容				総括
			2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	
C3 教育の充実	①自発的学修者育成のための履修情報提供	教務課	▶学習行動調査の実施(2年に1度)				①②③学生が主体的に学ぶ力を育成する取組として、ナンバリング導入、カリキュラム・マップ更新、シラバス改善、アクティブ・ラーニング型授業の増加といった具体的な計画を順次実施した。2年に1度行っている学修行動調査では、「科目の関連性を意識して科目を選択している」かどうかを問う設問に対する肯定的回答が2013年度から2016年度の4年間で約3% (66.5%から69.5%)向上した。また、コスト削減、補助金の獲得を果たしつつ、授業運営方法の変化(アクティブ・ラーニングへのシフト)に適合する教室環境の整備も行った。 ④単位制度の実質化を図ることを目的として学期制度の見直しを検討したが、本学の現状において3学期制や4学期制の導入は困難と判断した。一方で、集中講義については授業外学習時間の確保が可能であるという点から、CAP対象外とするなど柔軟な履修を認める制度を整備した。 ⑤アンケートの実施や授業のサポートをおとして状況を把握し、学生の情報リテラシーの向上を目指してさまざまな取り組みを行った。 ⑥パブリックサービスの大半を業務委託してから2017年3月末で3年経過するが、大きなトラブルや利用者からのクレームもなく順調に推移している。
	②主体的に学ぶ力の育成～学生を鍛える大学へ～	教務課	▶主体的に学ぶ力の育成を実現する制度等の導入				
	③ICTを活用した授業への対応、教育環境の標準化	教務課	▶アクティブ・ラーニング、PBL等に適した授業環境に向けた整備				
	④学期制度の見直し～集中と柔軟性がもたらす切れ目ない学び～	教務課	▶柔軟な学事日程の実施に向けた検討		▶集中講義の履修登録時期の柔軟化		
	⑤学生のICTリテラシー向上支援	情報センター	▶アンケート実施、授業サポート				
	⑥学修支援の「場」としての図書館機能の充実	大学附属図書館	▶パブリックサービスの外部委託				
C4 学修支援体制の充実	①新入生への学生生活導入支援	教務課	▶オリエンテーションプログラムの点検、改善				①②③導入教育の全学部実施体制に向けた整備、また新入生オリエンテーションの改善、学生要覧等各種資料の改訂、年間を通じた新入生向けメールマガジンでの情報発信等、周辺支援の充実にも取り組んだ。 ④本学オリジナルテキストの刊行など授業と直結した取り組みと語学Cafeの開催など周辺からの取り組みにより、語学教育の学習支援体制を充実させた。 ⑤⑥⑦学務システムは、大学事務部門を横断する運用調整チームを中心に管理運営を行い、事務作業の効率化と学生への迅速な情報伝達という点で効果が得られた。 ⑧学修支援体制の充実を図ることを目標として、音楽学部として必要かつ効果的なことはなにかということを具体的に検討した。なお、音楽学部独自のステューデントプロファイリング作成を検討したが、具体的な実現は全学規模でという結論に達した。
	②新入生への学修支援～生徒から学生へ～	教務課	▶導入教育の実施体制の整備				
	③学修支援の仕組みづくり～あとひと押しによる成長の促しと中間層への働きかけ(何が必要か自覚させる)～	教務課	▶SA制度の新設、TA制度の拡充、アカデミック・アドバイザー制度の機能強化				
	④語学教育促進	言語センター	▶語学教育支援 初習外国語5言語共通テキストの刊行、語学教室機能の有効活用の検討 語学検定試験受験料補助、語学Cafeの開催				
	⑤学務システム(GAKUEN)の運用管理	情報センター	▶学務システム、FerrisPassportの運用管理				
	⑥FerrisPassportの運用管理	情報センター	▶学務システム、FerrisPassportの運用管理				
	⑦学修支援システムの構築・運用管理	情報センター	▶アクティブ・ラーニング実施のための学習基盤の整備				
	⑧学修支援の仕組みづくり	音楽学部	▶音楽学部としての学修支援体制の検討				
C5 キャンパスの活性化	正課外活動の活性化支援	学生課	▶公認団体への支援、ワークショップ等の開催				公認団体への支援、リーダー対象のワークショップ(年2回)の実施、フェリスチャレンジ制度、一人暮らし応援プログラムなどの課外活動支援を通じて、キャンパス内の活性化に取り組んだ。
C6 キャリア形成支援の充実	①就職支援の充実	就職課	▶キャリア形成支援の充実に向けた取り組み ・就職講座 ・就職相談体制 ・インターンシップ				①②就職講座等の各種プログラム、就職個人相談などを通じて、学生が自身の適性を踏まえた職業選択ができるよう支援を行った。就職個人相談においては、企業の採用動向や選考スケジュールに注視しながら、学生のニーズに即して相談員を選択できる環境を整備するなど、本学ならではのきめ細やかなキャリア形成支援に取り組んだ。
	②アカデミックスキル、ソーシャルスキル、職業観の育成	就職課	・就職資料室内の就職関係書籍・資料の整備 ・内定先との関係構築				

中期目標名称	中期計画	所管	主な取組内容				総括
			2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	
C7 国際化の推進	①グローバル人材育成のための海外派遣留学促進	海外交流課			▶CLA棟内に設置する国際センター開設準備		①②③④学生の海外留学促進に向け、海外派遣プログラム、海外インターンシップを実施するとともに内容の充実に取り組み、大学主催プログラム参加者数は2016年度実績で185名であった。受入留学生に関しては、入試選考方法の見直しや日本語学校訪問機会を増やす等の施策により2017年度入試においては入学者数の増加につながった。日本人学生による受入留学生サポーター制度においては意欲的な学生による活動が展開され、留学生の満足度が高かった。また、キャンパス内外の国際交流活動をさらに活性化し、留学を志す学生と受入留学生の支援を担い、フェリスの国際化のシンボルとなる国際センターの2017年4月開設に向けて準備を進めた。 ⑤日本語日本文学科の教育研究の成果を世界に向けて発信するための取り組みである「日本文学国際会議」は2016年12月に「夏目漱石国際シンポジウム」を開催し、3日間を通して延べ1,500名を超える参加があった。
	②受入留学生を中心とした学内国際化推進	海外交流課		▶日本語学校訪問	▶留学生入試制度の見直し		
	③異文化理解を通じた国際交流による課外活動活性化	海外交流課		▶新たな運営形態での国際学生交流会館スタート ▶日本人学生によるレジデント・アシスタント、メンター/チューター制度			
	④セメスターアブロード	文学部 英語英米文学科		▶セメスターアブロードの実施			
	⑤日本語日本文学科の教育と研究の成果を世界に向けて発信するためのプロジェクト	文学部 日本語日本文学科			▶第10回日本文学国際会議開催		
C8 研究活動の充実	①研究支援の強化と学内体制の整備	総務課		▶研究活動における不正行為への対応に関する学内体制整備		①13-16の4年間は、文科省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」にて研究機関に求められている体制整備に取り組んだ。 ②学術機関リポジトリは2016年度までに登録コンテンツが1,600件までに増加し、学内外利用者の研究活動支援に寄与している。	
	②機関リポジトリの運用	大学附属図書館		▶学術機関リポジトリ「FAIR」を公開 ▶システムをJAIRO CLOUDに移行			

D 大学の発展を支える組織体制の強化

中期目標名称	所管	主な取組内容				総括
		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	
D1 大学組織の機能強化	①大学組織再編に関する検討 ②SDの推進 ③業務効率向上のためのシステム開発	総務課 総務課 情報センター		▶大学のガバナンス体制の見直し・整備 ▶SD研修会(職員業務学習会)スタート ▶支援プログラム作成等による事務事業効率化		①大学のガバナンス改革として、学長の責任と各会議体の役割・機能の明確化、副学長職を設けて教学担当と事業推進担当として学長の業務を補佐する体制の整備などに取り組んだ。2016年度からは、学院中期計画の推進を目的に設置された学院中期計画実行委員会の活動と連携し、大学と法人本部での重複業務の見直しを進めている。 ②2014年度から行っているSD研修会では、大学職員として求められる知識・スキルの向上を目的とした研修を行っており、部署間の情報共有、業務理解の場としても貴重な機会となっている。 ③情報センターによるIT機器や支援プログラムの作成は事務業務の効率化につながっている。情報センターの視点から業務を客観的に捉え、改善提案することが、効率的な業務遂行の一助となっている。
D2 財務状況の健全化	教育充実資金の拡充	総務課		▶寄付金プロジェクト立ち上げ(学院)	▶150周年記念募金募集開始	より多くの保証人に支援していただけるよう、募集方法の見直しを行うとともに、本学の教育への理解を深めてもらうための取組を積極的に展開した。2014年度には、学院全体の寄付制度のあり方について検討するための「寄付金プロジェクト」が立ち上がり、プロジェクトにおいて検討の結果、制度の見直しが行われ、2016年度からは学院の150周年記念募金に注力する方向で募集を行った。
D3 アカウンタビリティの確保	①保証人に対する就職情報の説明 ②大学基準協会での認証評価受審と自己点検・評価の実質化推進	就職課 企画・広報課	▶保証人向け就職セミナーの実施		▶大学基準協会への認証評価申請→適合認定	①就職課による保証人向けセミナーは、4年間で参加者がほぼ倍増。また、セミナー後のアンケートでは高い満足度を維持している。 ②学校教育法により義務付けられている外部機関による認証評価を2015年度に受審し適合認定を受けた。大学の教育研究活動の水準の維持・向上を目的とした自己点検・評価は毎年継続的に行っている。
D4 同窓会・卒業生との連携強化	同窓会活動の支援	総務課		▶大学祭での卒業生向け企画スタート		同窓会役員と大学執行部のコミュニケーションの場を持つなど、卒業生との連携強化を目的とした取り組みを推進した。2015年度からは、大学祭期間に卒業生向け講演会を実施している。
D5 奨学会との連携強化	①父母等保証人との連携強化 ②奨学会活動の支援	総務課 総務課		▶奨学会報、HPの改善・充実 ▶奨学会規約ほか関連規程の改正		①父母等保証人に本学への理解を深めてもらえるよう、会報やホームページにおいて、父母等保証人にわかりやすい情報発信をこころがけた。 ②奨学会活動の活性化推進のため、役員の活動への支援を行った。
D6 生涯学習の推進	オープンカレッジの充実	生涯学習課		▶講座の見直し	▶パンフレットの改善	大学の教育研究成果の社会への還元として春学期、秋学期の各種講座のほか、文化講演会(ワンコイン講座)、親子講座などを展開した。2014年度には生涯学習委員会において、開講講座の見直し等について検討した。